



今回は、今年の春休みをつかって一人旅をしてまた長男の話をさせていたたまります。昨年の秋ごろ「中学三年の高政受取候が終れたら春休みに一人旅に行ってみるか？」と誘ってみると、「いいよ」と思いがけず乗り気でした。電車に乗って池袋も行った事のない息子です。旅程はある程度考えてあげる事にし、その代わり内容は少しばかりハードなものにチャレンジしてもらう事にしました。



初日は、新幹線で京都。さらにそこから在来線で亀岡という所まで行き、宝泉寺という寺での座禅を含めた生活改善にも良いといわれている研修を受ける内容で、ここで3日間修行を積んでもらいました。正直、紹介でもなく、定かな内容も把握していないまま予約させてもらったので、かなり、心配してはありました。もしかしたら、途中で嫌になって逃げ出すのではないかと、徹夜まで失神でもしたら……可愛い子には旅をさせるとは言うものの、15歳の子供には、ちょっとつかたかな？ などなどちょっと後悔もはして……(笑) 仕事に置き換えても、信用信頼する事の勇氣、大切さ、全く同じことが言えますね。



京都北部の山の中、丁度期間中は雨も降り、気温も低く、吹さらしの板の間では、手も足も凍りつくようだ、たとのことで、その中で30分間の座禅を3日間で10数回こなし、朝夕の厳しい生活指導、栗膳、掃除、奉仕活動指導と、本人曰く、とても厳しい3日間をつらい事の方が多かったとの事でした。同部屋になった20代の学校の先生や、社会人の方々、大学生等から、やさしく声をかけてもらったりと、たのしみとかがこらえる事が出来たようだ。



研修終了後、一路京都から、新幹線で九州博多。そこから在来線で佐賀へ行き、大学からの助の友人宅へ遊びに行かせて戴いた。本人にとっては、一人で来た初めての速い九州は、まるで異国の感覚だ、たに違いありません。佐賀での3日間の日程の中で、他人の丈(友人)やその家族から決山の愛情をいただいたようでした。



ほんの一週間足らずの一人旅でしたが、15歳の彼にとっては、これまでの人生でも、とて影響のあった出来事だ、たかもしれません。それまでの彼は、家では中学生特有の反抗期、生活リズムが乱れ、受験勉強という理由をいいことに、廻りに感謝のかけらも無い態度、言動が自分のムクが目立つ我儘なところが目に付く子でした。



旅から帰ると、自発的に旅の感想を作文としてノート数ページにまとめ読ませてくれました。特に「人と人とのつながりの中で人間は生きている、思いやりの大事さを学びました。そして、やてやれないことはないという事、この旅行に行かしてくれて感謝しています。」と結んでくれていました。思えば、自分の15歳の時より頼もしい、考え方もしっかりしていました。子供扱いをしているのは、自分で、親の方がまたまたと気がつかされる始末です。と、ころであれから、2ヶ月になりおかげで、最近また元に戻ってきたような気がします。そう簡単に人間は成長するものでもないという事でしょうか？ 親子共に、やはりまたまたですか、共に良い経験をもたせて頂きました。これも本当に皆様のおかげです。ありがとうございます。